

【当日出された意見等】

	経営課題	意見内容	回答	担当課
1	2-1	ネウボラというワードが特に若年層に認知されていないのではないか。	若年層のネウボラの認知について確認はできていませんが、本市におけるネウボラの取組みは、「すべての子育て家族にとって、安心して気軽に相談できる場をめざす」ことを掲げています。 そのため、ネウボラという言葉の周知にとどまらず、お住まいの地域を担当する保健師がいることを子育て家族に知っていただくことに重点をおいて取り組んでいます。引き続き、誰にどこに相談したらいいかわからないということがないように周知していきます。	保健福祉課 (健康相談)
2	2-1	こども家庭センターができて半年経つが利用率などの運営状況を知りたい。	令和 6 年 4 月、改正児童福祉法に基づき、全国の市区町村が「こども家庭センター」の設置に努めるものとされており、全ての妊産婦に関わる母子保健分野と虐待相談をはじめとする児童相談全般を担う児童福祉分野が、連携して、切れ目のない一体的な相談支援を行うことを目的としています。 これまで、「地域保健活動担当」及び「子育て支援室」が子育てに関する相談窓口として、連携して対応していましたが、「こども家庭センター」の運営開始を機に、さらに連携を強化し、身近に相談者がいない等孤立化が進む妊産婦や子育て家庭に、できるだけ早期に関わり、確実に支援につなぐための会議を合同で開催する等しています。 こども家庭庁の調査結果によると、こども家庭センター設置済の自治体は 50.3%となっています（令和 6 年 5 月 1 日時点）。	保健福祉課 (子育て・教育)
3	2-1	こども家庭センターの認知度が低いので、場所や内容を回覧板で知らせて欲しい。	こども家庭センターの運営開始については、大阪市ホームページに掲載していますが、市民の方に対し、回覧板等あらゆる機会を活用して、相談の窓口となる「地域保健活動担当」並びに「子育て支援室」を紹介し、妊娠・出産・子育て等でお悩みの場合は、ひとりで抱え込まずにご相談いただけるようご案内してまいります。	保健福祉課 (子育て・教育)
4	2-1	「こどもが泣くこと」に関する参加型講座の参加者が少ない。広報を活発にしてほしい。予約制だけでなく当日参加者を増やしていければ良いのではないか。	子育て応援事業における講座について、会場ごとに受け入れ人数が異なることから、定員を設けて予約制としています。 予約なく当日来られた方は、当日の参加人数が定員に達していない場合には、参加することが可能です。 広報について、ホームページやチラシ設置、回覧板の活用等様々な手法を用いて、市民の方に情報が届くよう取り組んでまいります。	保健福祉課 (子育て・教育)
5	2-1	こどもが泣く事以外にも虐待防止など理解を進めなければいけない問題がある。 その意見の聞き取りを強化してほしい。	子育て支援室では、虐待相談以外にこどもの心身の発達・しつけ・不登校等こどもに関する様々な相談を受け、状況に応じて専門機関を紹介したり、地域での子育てに関する情報提供を行っています。 その際には、表面的な相談対応に終わらず、虐待のリスクの有無をチェックしながら、相談者の訴えを傾聴しています。 相談においては、電話や来所による面接以外に子育て支援センターや各地域子育てサロンに出向く等により対応しています。	保健福祉課 (子育て・教育)
6	2-1	この年代は比較的手厚い施策があるように感じる。 支援が必要な親子が必要としていることをしっかり拾って施策に生かしてほしい。	ご意見ありがとうございます。 子育てに関する各種業務において、得られたこどもの状況を把握して、課題を抽出し、施策に活かしてまいります。	保健福祉課 (子育て・教育)
7	2-1	妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を受けることができることは妊婦やその家族にとってとても心強いと思われる。	ご意見ありがとうございます。 引続き、切れ目ない支援に取り組んでまいります。	保健福祉課 (健康相談)

【当日出された意見等】

	経営課題	意見内容	回答	担当課
8	2-1	子育て支援講座は虐待防止を趣旨としてリアルケアベビーを用いているが、虐待が特に「子供が泣くこと」に起因するとしてこの講座を開講したその東淀川区担当課の意思決定は何に基づいてなされたのか、明確な資料を示されますように。また、この講座が虐待防止を趣旨としていることが受講者に隠されている理由について、東淀川区役所担当課の説明を求める。	子育て応援事業の企画に至った経過については、別紙4 参照。 事業立ち上げ前の区政会議において、「虐待防止」という表現より「子育てを応援する」という表現の方が、市民の方は参加しやすいのではないか、との意見を受け、検討した結果、「子育てを応援する」というプラス思考の表現に修正しました。	保健福祉課 (子育て・教育)
9	2-1	別紙 1		保健福祉課 (子育て・教育)
10	2-1	別紙 2		
11	2-1	別紙 3		
12	2-1	別紙 4		
13	2-2	ヤングケアラーを発見した後そのまま見守るだけで良いのか。不登校に関係するもっと踏み込んでいける相談場所はないのか。	・ヤングケアラーに関する相談について、区役所では子育て支援室が窓口となっています。ヤングケアラーとなっている事実を把握するために、まずご相談を受け、その要因を分析し、関係機関と連携する等対応しています。 ・不登校に関する相談についても、ヤングケアラーと同様に、区役所では子育て支援室が相談の窓口となっています。不登校の要因はこども側か養育者側か等様々な要因が考えられます。その要因に応じて一緒に考えていきますので、まずご相談ください。	保健福祉課 (子育て・教育)
14	2-2	アウトカム指標の「支援を必要とするこどもたちや～」について、つなげることはできているが、その後当事者にとって状況が好転したと感じた割合を出すことも必要ではないか。	本指標「支援を必要とするこどもたちや子育て家庭を適切な関係機関につなげられた割合」について、大阪市全体の評価指標としています。 こどもサポートネット事業は、学校の気づきからはじまる事業であることから、学校の目線で見ても、状況が改善されているかを、令和7年度から新たな指標として追加しています。 当該家庭の状況を当事者が評価することについては、転出や卒業等により困難な状況が考えられることから、評価指標として適切かどうかや評価結果を得る手法等について、学校や関係局とともに検討してまいります。	保健福祉課 (子育て・教育)
15	2-2	児童虐待防止のためのサポート事業が、課題を抱えたこどもたち、子育て世帯の心の支えになることを希望する。	ご意見ありがとうございます。子育て世帯が孤立しないように、一人ひとり丁寧に対応してまいります。	保健福祉課 (子育て・教育)
16	2-3	アウトカム指標の「区民アンケートで～」について、区民アンケートで50%以上をめざすとなっているが、具体的取り組みについてあまり知らない人が回答しているのも%が少ない原因では？教育環境が整っているとはいえないが、極端に低いままなら設問の仕方を工夫してみてもどうか。	ご指摘の点については、以前の区政会議においても、区民アンケートで「すべてのこどもが「生きる力」をはぐくむための教育環境が整っていると感じる」数値が上がらない理由として、それらの事業が十分に知られていないのが原因ではないかと指摘を受けております。引き続き、関連する事業の周知に努め、当指標の改善に努めてまいります。 指標については、将来ビジョンと連動し設定しており、期間中の数値の変動を比較する必要があることから、現在の将来ビジョンの計画期間である2026年までは、同一のアウトカム指標で計測することとしております。 併せて、多角的に評価することができるよう、学校目線からのアウトカム指標として「本取組が、児童・生徒の自尊感情の醸成や学力の向上に役立つと回答した学校の割合〇%以上（調整中）」を追加しております。	保健福祉課 (子育て・教育)
17	2-3	別紙5		保健福祉課 (子育て・教育)
18	2-3	別紙6		

【当日出された意見等】

	経営課題	意見内容	回答	担当課
19	2-3	・小中学校へのゲストティーチャー派遣事業 ・鑑賞教育事業 ・ステップアップ！検定にチャレンジ事業 それぞれの事業の令和7年度事業仕様書、予算調書、プロポーザル実施要領、委託契約書。東淀川区小中学校校長らがいずれを選択したのかの一覧と委託講師一覧、その講師の選定基準。それぞれの事業別の評価指標について。また、それらが起案され意思決定されるまでの全てのプロセスについて。 東淀川区担当課に情報提供を求めます。	鑑賞教育事業については、令和6年12月に、令和7年度の実施事業者を公募しており、関連資料を公表しております。 ゲストティーチャー派遣事業については、今後、各学校がテーマや講師を指定して区役所に連絡することとしており、現時点で具体的な講師等は上がっていません。（講師派遣の流れについては別紙1参照）。 ステップアップ検定については下記20のとおり。 各校の選択状況は別紙2－1・2－2のとおり。 この後は、市会に上程し議論されていくことになります。	保健福祉課 (子育て・教育)
20	2-3	ステップアップ検定は小中学生が対象か。	検定の受検をきっかけとした基礎学力の向上及び目標に向かって取り組むことで生まれる自己肯定感の醸成に役立つことを目的とし、令和7年度は中学生（全学年）の希望者を対象に実施します。 検定の種類は、英語検定及び漢字検定とし、学校に選択してもらいます。 受験する級については、英検・漢検3級は、教育委員会事務局事業として全員が受験対象となることをふまえ、当区の事業の対象をその前段階である4級または5級を対象としています。	保健福祉課 (子育て・教育)
	2-3	ステップアップ検定の種類について知りたい。		
21	2-3	読書環境の充実を。小学校の司書は、1名が週一回のみ入っている。回数を増やして欲しい。	貴重なご意見をありがとうございます。いただいたご意見については、教育委員会事務局の所管（中央図書館）に伝えています。	保健福祉課 (子育て・教育)
	2-3	移動図書館バスの時間帯を定期的に変更できないか。図書館から遠い地区には土曜日にくる便も当ててほしい。子どもが学校にいる時間にバスが来るので年単位でも月単位でもいいので回る曜日や時間を変更してもらえると子どもたちが利用しやすくなるのでは。司書が週一でも来るようになり、図書室が変わった。人数と日数を増やせばもっと良くなると思う。区政会議での意見が具体的取り組みにもっと反映できないか。		

【当日出された意見等】

	経営課題	意見内容	回答	担当課
22	3-1	認知度が思うようにあがらないところに地域活動の課題があるのでは。私もたくさん参加しているが、地域活動に参加している人が限られていることが地域福祉コーディネーターの存在を知っている人が増えにくい原因の一つではないか。区政委員としても周知に協力していきたい。	事業を委託している東淀川区社会福祉協議会とも連携しながら、さまざまな媒体を活用し広報周知しています。また、各地域でコーディネーターがチラシを作成し、地域内の掲示板を活用した周知活動を実施しています。さらに、年1回広報紙にも活動内容を掲載しています。今後も、より広く地域福祉コーディネーターの存在や活動内容を知っていただくよう、広報周知に努めてまいります。	保健福祉課 (保健福祉)
	3-1	地域福祉コーディネーターの認知度を上げるにはどうすればよいか。		
23	3-1	地域福祉コーディネーターが週2回なので時間が合わない。	予算上の制約がありますが、相談件数等の実績等を考慮して、今後、活動時間や日数について、検討してまいります。	保健福祉課 (保健福祉)
	3-1	地域福祉コーディネーターの人数を増やして幅広い支援に努めて欲しい。		
24	3-1	地域福祉コーディネーターや民生委員には普段からお世話になっている。	貴重なご意見ありがとうございます。少しでも多くこのようなご意見をいただけるよう活動に努めてまいります。	保健福祉課 (保健福祉)
25	3-2	地域別保健福祉計画等は地域によってかなり温度差がある。区役所の地域担当の職員から活発になるよう声掛けしてもらえないか。	地域課及び東淀川区社会福祉協議会と連携しながら、地域内の機運の醸成に努めてまいります。	保健福祉課 (保健福祉)
26	3-2	地域別保健福祉計画の立案にサポーターを配置したのはとても心強いと感じる。	貴重なご意見ありがとうございます。東淀川区社会福祉協議会とも連携して、全地域での保健福祉計画の策定に取り組んでまいります。	保健福祉課 (保健福祉)
27	3-3	窓口でこういう割引やサービスも受けられる、こうすれば手続きが簡単、何歳までにこういう準備しておくの良い等、前もって知っておくと助かる制度・情報プラスαがあれば一度相談してみようと思える。手続きには行かなければならないが、療育手帳等とマイナンバーカードなどを活かして書類記入を減らせたら負担が軽くなるのでは。また、出前講座で福祉制度の使い方、質疑応答などができる機会がほしい。	新規に障がい者手帳を交付する際に、「福祉のあらし」をお渡ししています。障がい者やご家族を対象にした制度や経済面・住居・交通面での支援等あらゆる情報が1冊にまとめられています。大阪市ホームページでデジタルブック版を掲載していますので、ぜひご活用ください。 https://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000147230.html 大阪市では、日々進歩するデジタル技術やデータを活用し、大胆に業務を見直すことによって、行政サービスの向上と徹底した業務効率化を図る＝デジタルトランスフォーメーション（DX）を進めていくため、「Re-Designおさか ～大阪市DX戦略の基本的な考え方～」を令和4年4月に策定しました。サービスのRe-Designとして、セキュリティを万全に努めた上で行政サービス全体にわたって、デジタルを活用して、いつでも・簡単・便利・快適の視点を持って提供するとしています。転出入に伴う必要な申請書を一括で入力できるスマート申請は始まっていますが、今後もDXを推進してまいります。 出前講座については区ホームページに講座内容等掲載しております。掲載されている以外のテーマでもご要望があれば対応したいと思いますので、ご相談ください。	保健福祉課 (保健福祉)
28	3-3	ひがよどなごみ勉強会が児童・生徒の向学心を支え、進路を拓く後押しになることを願う。	貴重なご意見ありがとうございます。子どもたちの将来の自立の後押しとなるよう取り組んでまいります。	保健福祉課 (保健福祉)

【当日出された意見等】

	経営課題	意見内容	回答	担当課
29	3-4	職場の簡易な健康診断だけでなくがん検診等受診しなければならないと思うので、土曜日行けるところを探して受診しようと思う。つい後回しというのがいけないと思っている人が多いのでは。 アウトカム指標で「百歳体操」の実施会場は数が分かりやすいが実施者数は継続して来ている方をカウントしているのか。	乳がんは、女性がかかるがんの中で最も多く、9人に1人がかかるといわれ、本市乳がん検診の無料クーポン券の送付対象（40歳）を拡充(受診日時点で41歳から59歳の大阪市国民健康保険被保険者である女性)するなど、がんの早期発見・早期治療につながる取組をあらたに実施しています。大阪市がん検診は、乳がん検診の他にも、胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・前立腺がん検診を、比較的安価で受診することができます。早期がんなら9割以上が治ると言われていますので、がんの早期発見と正しい健康意識の普及・啓発を図るため今後もがん検診受診率を向上させるための様々な取組を大阪市健康局と連携して進めてまいります。 「百歳体操」は、大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険計画の目標内容にもなっていることから、実施者数についても大阪市全区で考え方を統一しています。令和5年度の実施者数は、1か月のうち参加人数が最も多い任意の1回における参加者数を計上しております。	保健福祉課 (保健企画)
30	3-4	ひがよどウォーキングマップを町会で告知してはどうか。	ご意見ありがとうございます。ウォーキングマップは、百歳体操の実施会場などで活用しているところです。おおさか健活マイレージ「アスマイル」のアプリにもウォークラリーとして登録されています。コースのポイント地点を通過するとアスマイルポイントが取得でき、ポイントを特典に交換できる楽しい仕組みとなっています。また、広く区民の方に活用していただけるように区のホームページの掲載にむけて準備しています。	保健福祉課 (保健企画)
	3-4	ひがよどウォーキングマップを職場、地域、家庭で広め、お互いの健康増進に役立てたい。		